

様式(細則 5-2)

令和 2 年 3 月 31 日

浜田市議会議長 川神 裕司 様

議員名 西川 真午



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察・**研修**)を(実施・**受講**)したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 2 年 3 月 30 日 (月) 10 : 00 から 17 : 00 まで
2. 視察・研修内容 地方議員セミナー
『議会活性化と議員定数・議員報酬を考える』
主催：(株) 地方議会総合研究所
講師：土山 希美枝 氏 (龍谷大学教授)
3. 視察先又は研修先 京都テルサ (京都市)
4. 調査経費 30,300 円
(経費内訳 受講料 25,000 円、振込手数料 440 円
交通費 (高速道通行料金) 4,860 円)



5. 調査研究活動の概要

(1) 「対話と議論」の議会改革

- ① 議会に「対話と議論」はあるか
- ② 心が折れる議会報告会
- ③ もりあがらない議員間討議
- ④ 「話し合い」をデザインする
- ⑤ 可視化と共有ツールをつかう
- ⑥ 議会の「ファシリテーション」
- ⑦ 議会の「対話と議論」の強みをいかす

(2) 議員の定数と報酬を考える

- ① 議会というシクミから定数を考える
- ② 議員報酬を考える視角を整理する
- ③ 「議員」と「議会」をどう設定するか？
- ④ 「定数と報酬」と「理解と納得」を考える
- ⑤ 議会と議員の価値はあげられるか

6. 所 感

議会報告会はこの10年で開催する議会の数が飛躍的に伸びたが、参加者の固定化や減少、マンネリ化でその意義が問われている。議員間討議は条例や規則で規定する議会が増えて制度はできたが、実際に実施している議会は増えていない。この問題点の解決には議会が「追認機関」としてではなく「政策議会」としての機能を発揮し、自治体の政策を制御しなければならない。そして政策の課題を議員・議会と市民が共有し、話し合いの結果が議会の意思決定に反映されるタイミングで実施することが重要である。

議員定数は合議性、代表性の観点から決定され、議員報酬は生活給という考えをもとに設計することができるが、実際は市民からの理解と納得を得る必要がある。そのために議会は「政策議会」としての機能を強化し、市民にとってより良い政策や制度の実現を目指し、またその努力と成果を可視化して市民の評価を求めなければならない。